

2016年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2017年 4月 28日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 長尾 洋子

研究プロジェクトの名称	
町田市の観光と文化施設活用の融合にむけた実践的研究 (1年目)	
研究目的 東京西部のベッドタウン、「住む町」としてのイメージが強い町田市ではあるが、近年、ニューツーリズムへの注目から、観光面が強化されている。本研究は、学生の視点から町田市内（および周辺）の文化施設の現状をとらえること、その知見をもとに地元住民と交流人口がともに文化を愉しみ、培っていくようなツアーをプロデュースすることを目的とする。なお本研究における文化施設とは、文化会館や市民会館といった公共ホールだけではなく、博物館や美術館、記念館といった各種ミュージアム、さらに図書館や資料館といったライブラリー施設、民間のギャラリーやカフェ、憩いの場なども含む。1年間の研究期間内に、町田市の主要な文化施設、個性や魅力のある文化施設を“探検”し、ニューツーリズムをコンセプトとした観光ツアーを企画・実施することを目標とする。	
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)	
長尾 洋子	教

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)
2016年4月 文化施設取材、分析、ツアー企画に携わる教員・学生組織(カルチャー・スポット探検隊)の立ち上げ 5月22日 第1回カルスポ探検ツアー (旧白洲邸武相荘、芹ヶ谷公園、国際版画美術館、町田市民文学館ことばらんど) 6月下旬～7月初旬 「大学生のカルチャー・スポット利用についてのアンケート」実施 7月5日 講演「町田の観光とまちづくり」打合せ(町田市役所) 7月19日 講演「町田の観光とまちづくり」(町田市経済観光部産業観光課 牛腸哲史氏) 7月22日 第2回カルスポ探検ツアー「妖怪がいた！」展に行こう(町田市民文学館ことばらんど) 8月 アンケート集計、ツアーに向けて候補地訪問調査開始(町田市内各所) 9月20日 火曜ランチ・ミーティング開始(11月13日までの毎週火曜日昼休み) 9月～11月 ツアーに向けて候補地、ルートを小グループで訪問調査(町田市内各所) 11月13日 第3回カルスポ探検ツアー「知ってるようで知らない町田探検ツアー」実施 11月22日 第3回カルスポ探検ツアー反省会 *町田市民文学館ことばらんど企画展示関連イベント協力要請 *相模原市民文化財団との連携模索開始 12月上旬 第3回カルスポ探検ツアーアンケートとりまとめ 12月15日 町田市民文学館ことばらんど野田宇太郎展関連企画「知っているようで知らない町田探検ツアー—春を探して」打合せ会議(2017年1月18日、2月8日、3月7日下見) 2017年1月17日 相模原市民文化財団との会議(連携内容、形式について) 2月23日 相模原市民文化財団との会議(調査に対する協力について) 2月14日 セミナーイベント「M-Café」開催(報告「地域における文化資源、ニューツーリズム、教育活動をつなげる試み」(長尾洋子)、講演「東急沿線におけるカルチャー・スポットとツーリズム戦略」(東急電鉄 雨宮浩輔氏)) 3月18日 町田市民文学館ことばらんど「知っているようで知らない町田探検ツアー—春を探して」当日サポート

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

1. 町田市の観光・まちづくり、文化施設活用状況について動向把握

① 町田市経済観光部産業観光課・牛腸哲史氏による講演「町田の観光とまちづくり」

講演とそれに先立つ打合せは一種のヒアリングの機会となった。10年ほど前から観光振興政策が着手され、観光案内人事業（市民によるボランティア）が盛んであること、また行政のスタンスとしては観光による収入増よりも、住民が生きがいやアメニティーを享受し、末永く住み続けていくことへの期待が大きいとの情報を得た。課題としては、魅力を十分に発信できていないこと、受け入れ態勢が未熟である。今後は「町田市観光まちづくり計画」の策定、“住んでよし、訪れてよし”を旨とした観光振興が予定されているという。

聴講した121名の学生からは、新旧の要素が混在する中心市街地、豊かな自然、自然・歴史・交流を楽しむフットパス活動に関心が寄せられた。

② 「大学生のカルチャー・スポット利用についてのアンケート」

本学学生239名に対して、町田市内62か所のカルチャー・スポットのうち「訪れたことのあるところ」、「今後訪れてみたいところ」を尋ねた。その結果、前者については109シネマグランベリーモール、和光大学ポプリホール、仲見世商店街、後者についてはリス園、ジャズカフェ、ブックカフェが上位を占めた。とりわけカフェの順位が高いのが特徴的であった。文化を受け取るというより、雰囲気や人との交わりを通じて味わうことへの関心が窺われる。

2. 学生の視点からのカルチャー・スポットの認知、価値評価

① 調査としてのツアー

3回にわたるツアーへの反応から、学生の文化施設認知や活用頻度は概して低いことが判明した。

② カルスポ探検隊隊員による単独・小グループ訪問調査

11月ツアーに向けて、16名の隊員が町田市内カルチャー・スポット（リス園、薬師池公園、町田市立国際版画美術館、小路宿里山交流館、カフェなど）を訪ね、その文化・社会的性格、利用状況、自主企画ツアー訪問地としての適合性を調査した。その結果、自然豊かなエリアに関心が集まった。そのエリアには鶴川からバスでのアプローチが有効だが、公共交通機関で複数のスポットを回るには離れすぎている実情が確認された。

③ 学生・教員による11月ツアー企画運営。実施後アンケート（CS探検隊、参加者対象。記述式）

2-②をもとに、自然豊かなエリアから、公共文化施設の立地するエリアを抜け、町田駅周辺の商業地に出るルートを設定し「知ってるようで知らない町田探検ツアー」と銘打ったツアーを企画した。普段とは異なる眼で見、交流を促すためのワークショップ「チェキでGO!!」を考案し、学内から参加者を募集、一般からの参加も交えて実施した。その結果、訪問地の見せ方、回り方、仕掛け（ワークショップ）を導入することによって、文化を主体的に楽しむ「場」を創る可能性が見えてきた。

3. 全体的な成果、今後に向けて

・学生の視点からの町田市内および周辺の文化施設認知・活用の現状：町田駅周辺の商業地域以外については認知、活用度ともに低いことが判明した。しかし、知識、訪問機会の増加により関心が高まることがわかった（キーワードは自然、交流、カフェ）。この知見をもとに、今後はより広い範囲において現状を探っていききたい。

・地元住民とともに文化を愉しみ、培っていくようなツアーのプロデュース：試行的なツアーを企画・実施することができた。本プロジェクトの活動がきっかけとなって町田市民文学館企画イベントへの協力が実現したことは大きな副産物である。また相模原市民文化財団との連携、協力の下地ができた。今後、アイデアやコンテンツの提供の機会と幅を広げ、カルスポ探検隊隊員による地域貢献への道をさらに探っていききたい。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2016年4月～2017年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

なし

※ 提出期限=2017年4月28日（金） 提出先=企画室企画係（担当：奥名）

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけワープロで記入し、e-mailで送信してください。

※ kikaku@wako.ac.jp（企画係）